科目名	成人看護学方法論Ⅳ	対象学年・時期	2年・後期
講師	非常勤講師および専任教員	単位数・時間数	1単位・30時間
講義概要	解剖生理学では、人体の様々な組織や細胞・臓器について、それらが正常に機能することで人間の生命を維持していることを学んだ。病態学では、人体の様々な機能が破綻した状態について学び、病態・検査・治療に関する知識と結びつけ身につけた。 この科目では、解剖生理学と病態学の知識を基盤とし、成人看護学概論で学んだ成人期にある対象の特徴をふまえ、対象が各種の健康障害から回復していく、障害を持ちながらも生活を再構築していく過程を支援するための知識と技術について学ぶ。健康障害を抱えた対象の身体的・精神的・社会的特徴を理解し、対象の置かれた状態を観察し判断するための知識、回復に向けた支援を対象に合わせて実践するための知識を身につける。 ここでは、泌尿器に障害のある対象、女性生殖機能障害のある対象、眼科疾患・耳鼻咽喉科疾患のある対象、がん放射線療法を受ける対象への看護について学習する。		
講義形態	講義、演習		
学習目標	1. 泌尿器に障害のある対象への看護が理解できる。 2. 女性生殖機能障害のある対象への看護が理解できる。 3. 眼科疾患のある対象への看護が理解できる。 4. 耳鼻咽喉科疾患のある対象への看護が理解できる。 5. 放射線療法を受ける対象への看護が理解できる。		

学習内容（授業計画）		
	＜泌尿器＞	
	1回目　泌尿器に障害のある患者のアセスメント	
	2回目　前立腺切除術を受ける患者の看護	
	3回目　尿路変更術を受ける患者の看護	
	＜女性生殖器＞	
	1回目　生殖・性機能障害のある患者のアセスメント 検査・処置を受ける患者の看護 （超音波検査、マンモグラフィー）	
	2回目　子宮・卵巣摘出術、乳房切除術を受ける患者の看護	
	＜眼・耳鼻咽喉ジョイント＞	
	1回目　ジョイント授業のガイダンス 眼科疾患をもつ患者の看護	事前学習：眼・耳鼻咽喉の解剖生理、疾患、検査、治療、看護
	2回目　耳鼻咽喉科疾患をもつ患者の看護 視覚・聴覚に障害をもつ対象の生活支援（調べ学習）	
	3回目　視覚・聴覚に障害をもつ対象の生活支援（グループワーク）	
	4回目　グループごとプレゼンテーション	
	5回目　グループごとプレゼンテーション	
	6回目　視覚・聴覚に障害をもつ対象への看護まとめ	
	＜がん放射線看護＞	
	1回目　がん放射線治療を受ける患者のアセスメント	
	2回目　放射線治療を受ける患者への看護の実際 （副作用への対応）	
	3回目　放射線治療を受ける患者への看護の実際 （意思決定支援）	

使用テキスト	系統看護学講座　専門Ⅱ　成人看護学　⑧腎・泌尿器　⑨女性生殖器　⑬眼　⑭耳鼻咽喉 系統看護学講座　別巻　臨床放射線医学

事前学習・ 事後学習 (学習を促進できる学修)	適宜、指示します。
評価基準と 評価方法	筆記試験
備考	解剖生理学、病態学を復習した上で授業に臨みましょう。